

琵琶湖環境対策特別委員会
平成 29 年(2017 年)9 月 7 日
琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課

滋賀県におけるエコツーリズムの推進について

1. エコツーリズムとは

※環境省 HP「エコツーリズムのススメ」より引用

- (1) 地域ぐるみで自然環境や歴史文化など、地域固有の魅力を観光客に伝えることにより、その価値や大切さが理解され、保全につながっていくことを目指していく仕組
- (2) 観光客に地域の資源を伝えることによって、地域の住民も自分たちの資源の価値を再認識し、地域の観光のオリジナリティが高まり、活性化させるだけでなく、地域のこのような一連の取り組みによって地域社会そのものが活性化

《エコツーリズムの基本理念》

※エコツーリズム推進法(平成 19 年法律第 105 号)

- ① 自然環境の保全
- ② 観光振興
- ③ 地域振興
- ④ 環境教育の場としての活用

2. 滋賀県におけるエコツーリズム推進の意義




- (1) 来訪者や地域住民が、琵琶湖とそれを取り巻く山・川・里・湖、さらには滋賀の生活文化を体験・体感することで、琵琶湖や自然の重要性を学ぶことができる。
- (2) エコツーリズムの推進が、観光振興や地域資源を活用した地域活性化を通じて、「活かすこと」と「守ること」の好循環による琵琶湖の保全再生や生活文化の継承を図ることができる。

3. これまでの動き

(1) 全国

平成 3 年	エコツーリズム推進のための検討調査(環境庁)
平成 10 年	日本エコツーリズム推進協議会設立 (現:日本エコツーリズム協会)
平成 17 年	第一回エコツーリズム大賞 (環境省・日本エコツーリズム協会の共催)
平成 20 年	「エコツーリズム推進法」施行
平成 21 年	エコツーリズム推進全体構想 第一号認定(埼玉県飯能市)
平成 27 年	「琵琶湖の保全及び再生に関する法律」公布・施行

(2) 県内

<p>平成 20 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エコツーリズム協会しが設立 ・「マキノ里湖体験ツアー協議会」が第 4 回エコツーリズム大賞・特別賞を受賞 <p>《マキノ里湖体験ツアー協議会》</p> <p>琵琶湖畔のマキノでは、豊かな地域社会を築くことを目的とし、地域の人々自らが歴史や生活文化等の地域資源に気付き、活かすとともに、活動を継続的に実施していくことが重要であるとの考えから協議会を設立し、マキノでしか体験できない本物の体験ツアーを実施。</p> 
<p>平成 21 年</p>	<p>「地域観光プロデュースセンター」が第 5 回エコツーリズム大賞・特別賞を受賞</p>
<p>平成 24 年</p>	<p>「湖西夢ふるさとワイワイ倶楽部」が第 8 回エコツーリズム大賞・特別賞を受賞</p> <p>《湖西夢ふるさとワイワイ倶楽部》</p> <p>森林と平野、琵琶湖が川で結ばれている高島市で、自然の恵みを活かした文化を形成しつつ、自然と共存する生活様式が定着している。暮らしそのものが観光資源であり「自然や資源を大切に、あるもの探して、高島市の自然や歴史・生活・文化を五感で楽しみましょう」といった理念の下、環境保全活動と地域活性化を両輪に継続して活動を実施。</p> 
<p>平成 25 年</p>	<p>「針江生水の郷委員会」が第 9 回エコツーリズム大賞・グランプリを受賞</p> <p>《針江生水の郷委員会》</p> <p>家々に湧き出る水と家々の間を流れる水路を組み合わせて利用する「川端（かばた）」を中心に、地区を流れる針江大川やびわ湖に至るまで様々な水との関わり、針江地区全体を「針江里山水博物館」として紹介。町づくり委員会の一員として地域活性化に関わり、身近な自然環境の保全に対する行動への機会づくりに取り組んでいる。</p> 

平成 27 年	「琵琶湖とその水辺景観－祈りと暮らしの水遺産」が日本遺産に認定
平成 28 年	「東近江市エコツーリズム推進協議会」設立 ≪東近江市エコツーリズム推進協議会の目的≫ 東近江市の循環共生型まちづくりに資するため、東近江市の地域資源である豊かな自然環境や歴史文化を活用し、その価値についての気づきを与え、更には資源に対する保全意識を高める東近江市ならではのエコツーリズムを推進
平成 29 年	「琵琶湖保全再生施策に関する計画」策定

4. 現状

(1) 県内のいくつかの地域では特色ある取組が展開されている。

例) ○東近江市 ※詳細は【別紙】のとおり

- ・エコツーリズム推進協議会の設立
- ・「鈴鹿 10 座」の選定、保全・活用プランの策定
- ・「SEA TO SUMMIT」の開催

○高島市

針江地区「川端（かばた）」を活用したエコツーリズム

○日野町

農村生活体験をはじめとしたグリーン・ツーリズムの推進

(2) 県では、エコツーリズムに関する県内での情報共有や統一的な情報発信を目的に、市町等との「エコツーリズム推進ネットワーク形成会議」を立ち上げた。 ⇒8月28日(月) 第1回会議を開催

5. 課題

(1) 県内でのエコツーリズム推進に向けた情報共有・情報発信の強化、ネットワークの拡大

(2) 地域資源の掘り起こしや磨き上げに向けた方策

(3) エコツーリズムを推進する人材の育成

6. 今後の推進に向けた県の役割

(1) ネットワークの活用・強化

- ・ネットワーク形成会議等を活用し、市町や団体等で知見を共有するとともに、県内のエコツーリズムに関する情報発信を強化
- ・ネットワークの更なる拡大

(2) 国、大学、民間団体等との連携推進

- ・ 国（環境省等）、大学、日本エコツーリズム協会などと県内市町・地域との連携を促進し、地域資源の掘り起こしや磨き上げを推進

(3) 人材育成の推進

- ・ 琵琶湖と生きる人の暮らしを伝えるためのエコツアーの企画・ガイドに必要な「共通的な知識」を習得する講座等の開催で人材育成を推進

【別紙】東近江市におけるエコツーリズムへの取組

1 東近江市におけるエコツーリズムが目指すもの

【現状・課題】

- ・ 鈴鹿から愛知川、琵琶湖に至る「森里川湖」と人々の暮らしとのつながりが希薄化し、そのことにより自然環境が劣化している。
- ・ 鈴鹿山脈などの豊かな自然資源や、古くからの人々の交流により育まれてきた歴史・文化遺産などが十分に活かされていない。

【エコツーリズムが目指すもの】

- ・ 東近江市の「森里川湖」の自然やそれらの恵みによって育まれてきた暮らし・文化をエコツーリズムを通じて楽しみ、学ぶことにより地域資源を再評価し、活用を図るとともに保全・再生する仕組みの構築を目指す。

2 具体的取組

(1) 東近江市エコツーリズム推進協議会の取組

【構成員】 びわ湖の森の生き物研究会、(一財)東近江市観光協会、(株)モンベル、NPO法人 遊林会、NPO法人愛のまちエコ倶楽部、(株)みんなの奥永源寺、東近江市森と水政策課

【主な取組】 資源調査、エコツアーの開催、環境整備、プロモーション

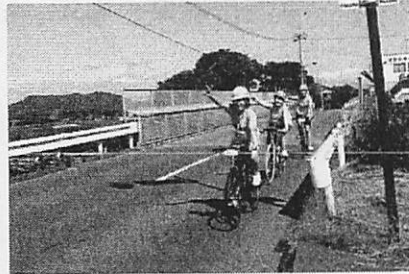
(2) 「SEA TO SUMMIT びわ湖東近江 2017」の開催

【開催内容】 6月3日 環境シンポジウム

6月4日 アクティビティ (カヤック、バイク、ハイク)

【参加者数】 154組 249名

【実行委員会】 商工会・商工会議所、カヌー協会、サイクルショップ、アウトドア事業者、山岳関係者、観光協会、モンベル、東近江市



(3) 鈴鹿 10 座を中心とした取組

① 鈴鹿 10 座の選定

【趣旨】 鈴鹿山脈のすばらしさと存在意義を周知し、豊かな森林資源や水資源を次世代に継承するため、市制 10 周年を記念して平成 27 年 9 月に鈴鹿 10 座を選定。

【鈴鹿 10 座】 御池岳、藤原岳、竜ヶ岳、釈迦ヶ岳、御在所岳、雨乞岳、イブネ、銚子ヶ口、日本コバ、天狗堂

② 「(仮称) 鈴鹿 10 座の保全・活用プラン」の策定 ※H29.9 策定・公表予定

【趣旨】 鈴鹿 10 座の持続的な保全・活用を目指し、計画的なソフト・ハード両面の整備や体制づくり→利用者の利便性と満足度の向上・地域住民の参加による地域活性化

【内容】 プランの趣旨、現状と課題、目指す姿、具体的取組、数値目標、計画期間・進行管理と評価

③ プロモーション事業

- ・ 鈴鹿 10 座登山にかかる普及番組制作 (東近江スマイルネットにより、銚子ヶ口、天狗堂を製作・放送済み。今年度中にほか 3 座を制作予定)
- ・ 「SEA TO SUMMIT びわ湖東近江 2017」イメージビデオ (You Tube 掲載中)
- ・ 鈴鹿 10 座パンフレット、チラシ、ガイドブック (制作中)

④ 鈴鹿 10 座エコツーリズムガイド養成講座

【目的】 上記「東近江市におけるエコツーリズムが目指すもの」を実現していくための中核的な担い手の育成・確保

【仕組み】 養成講座受講→鈴鹿 10 座エコツーリズムガイドとして認定・登録 (3 年間有効)

【講座内容】 エコツーリズムの基礎知識、登山およびガイドの知識・技術、鈴鹿山脈の動植物・地形・地質・歴史・文化、森林・林業施策、自然環境保全施策、観光施策等 ※平成 29 年 9 月 5 日開講